

7 交通・運輸

1 自動車等の状況

自動車等の状況		(単位：台)	
区 分	新居浜市	別子山村	計
普通貨物	2,515	13	2,528
小型四輪貨物	5,724	9	5,733
乗合自動車	145	1	146
普通自動車	10,187	28	10,215
小型乗用車	29,006	69	29,075
特殊用途車	1,270	9	1,279
大型特殊車	278	1	279
第1種原付自転車	16,239	34	16,273
第2種原付自転車	5,365	3	5,368
第2種原付自転車甲		0	0
軽二輪車	1,630	1	1,631
小型二輪車	1,379	2	1,381
三輪軽自動車	2	0	2
軽四輪貨物自動車	14,150	71	14,221
軽四輪乗用車	16,454	41	16,495
小型特殊自動車	245	1	246
合 計	104,589	283	104,872

資料：交通白書（12年12月末現在）

現状

新居浜市における自動車の普及は、1世帯あたり、2.32台となり、日常生活における地域間交流は市町村の区域を越えて、ますます増大している。反面、道路の渋滞、交通事故の増加など交通環境は厳しいものがあり、今後交差点改良など、広域的な視点での道路改良が必要となる。

課題

現在新居浜市と別子山村を結ぶ交通機関は自動車のみであり、その幹線道路である新居浜別子山線の整備促進を緊急に図る必要がある。

効果

合併促進のための事業として、県道新居浜別子山線の整備が優先的に促進されることにより、両地域を結ぶ幹線ルートが確保される。

2 バスの状況

生活路線バス運行維持対策

路線名		
生活 路線 バス 維持 対策	新 居 浜 市	住友病院前～マイントピア別子線
		住友病院前～黒島線
		周桑営業所～山根グランド線
		広瀬公園～多喜浜駅線
		住友病院前～川之江営業所線
別 子 山 村	川之江～別子山村線	
そ の 他 の 路 線	新 居 浜 市	西条～中萩～住友病院前線
		今治～新居浜駅～山根グランド線
		松山～新居浜線
別 子 山 村		

現状

自動車等の普及により、乗降客数は、減少傾向が著しい。また、改正道路運送法が平成14年2月1日に施行されるのに伴い、乗合バス事業の需給調整規制が廃止され、赤字路線からの撤退が自由となるため、生活道の維持確保が困難になることが懸念されている。特に、平成13年度からは、広域的・幹線的な路線以外は国の補助制度がなくなったため、路線の見直し等の根本的な対策が必要である。

課題

公共交通機関としてバス路線を確保することが課題であるが、そのためには、補助金による財源手当が必要である。またコミュニティバス導入も含め

た新たな交通手段等について検討する必要がある。

効果

公共輸送機関としてのバス路線の設置は、移動手段の確保と交流の活発化が促進される。

3 JRの利用状況

JRの利用状況

(単位：人)

区 分	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	
新居浜駅	定期外	830,740	836,580	808,840	794,952	746,060
	定期	615,390	595,680	575,970	577,548	600,060
多喜浜駅	定期外	34,310	73,000	31,390	32,208	29,200
	定期	49,640	46,720	49,640	55,632	51,100
中萩駅	定期外	28,470	22,630	21,170	21,960	20,440
	定期	94,170	89,790	67,890	58,560	59,130

資料：JR

現状

バス路線については、新居浜市は、瀬戸内バスの生活路線対策として5路線、別子山村は、川之江からの1路線が運行されている。

自動車の普及により利用者は減少傾向にあるが、近年はほぼ横ばいの状況である。新居浜駅の利用状況は、定期より定期外の方が多いが、定期利用者もかなりの割合を占めており、地域間交流の広域化を現している。

4 駅別停車列車数

(単位：便)

	駅名	上り		下り		計
		特急	普通	特急	普通	
新居浜市	新居浜	19	20	18	20	77
	多喜浜	0	20	0	20	40
	中萩	0	20	0	20	40

現状

新居浜駅において、約1時間間隔で特急は全て停車している。

5 海上輸送の状況

新居浜港船舶乗降人員 (単位：人)

年	新居浜港		
	総数	乗船	下船
9年	329,450	166,336	163,114
10年	309,994	158,002	151,992
11年	305,518	155,999	149,519
12年	280,470	145,151	135,319

現状

新居浜港は港務局管理の重要港湾として、利用用途としては、工業用原材料を中心とした物資の輸送に加え、阪神方面への大型フェリー就航により、阪神方面への交通拠点として機能している。コンテナ貨物定期も需要が増えている。

新居浜港から阪神方面へのフェリーが就航し、交通拠点として機能している。

課題

新居浜港からは、阪神方面へのフェリー航路が就航しているが、利用の拡大を図るために阪神航路以外の新たな航路の開設が必要である。

利用促進のために、連絡道路整備の必要がある。